

陸海空、戦術的戦傷救護(TCCC)訓練を実施 *Airmen, Soldiers, Sailors Tackle TCCC*

September 3, 2020

374th Airlift Wing Public Affairs

仲間が出血に堪えられる時間はあと3分だ。疲労し果て、サイレンが耳元に鳴り響き、周囲には病院もない。頼れるのは、バックパックの中にあるものと戦術的戦傷救護(TCCC)訓練で学んだ技術だけだ。

8月19日から21日までの3日間に渡り、横田基地、厚木海軍飛行場、キャンプ座間の衛生兵は、新たに設けられたTCCC訓練課程を修了するため、教室と野外で練習を行った。

「これらのスキルを習得することは、戦闘や現場での負傷管理に欠かせない。出血を制御する方法、気道呼吸管理、そして搬送する方法を衛生兵に教えることは、我々の指導で最も重要なことだ」と第374医療運用中隊プライマリアケア小隊長兼TCCC主任指導官デメトリウス・ジョンソン軍曹は述べた。

プログラムは、「戦闘下でのケア」、「戦術フィールドケア」、「戦術的撤退救護」の3つのフェーズ(行動段階区分)で構成され、それぞれに具体的な手順を踏む。

「戦闘下でのケアと戦術的フィールドケアの訓練は、とても有意義だった。自分がどこを改善する必要があるのかを知ることができ、目を見張るような体験だった。我々衛生兵たちは、絶えず進化し学び続けている」と、医療即応訓練部隊病院衛生兵マーク・ペレス海軍二等兵曹は述べた。

この訓練は、医療の準備態勢を強化するために継続的に努力する中で、実際に起こりうる戦闘状況に備えて衛生兵がより適切に準備するための訓練であり、所属基地でも派遣地でも役立つ重要な技術だとジョンソン軍曹は話す。

戦闘環境下では誰でも、TCCC訓練を受けた衛生兵の助けが必要になる可能性がある。その負傷者は、自分かもしれないし、息子や娘、配偶者、孫、または友人かも知れない。

「私は現役軍人と結婚している。こうした訓練を行う際は、夫のことを考え、どのように夫がこうした衛生兵と一緒に派遣されるかを思い描いている。夫が無事に帰還するためにも、衛生兵が知識を持ち、正しいケアを実践できるよう徹底したい。それが私の一番の動機であるものの、誰もが愛する人に抱く感情でしょう」と第374医療群シミュレーションオペレーター兼TCCC調整官ドミニク・トルヒーロ＝ホブス氏は述べた。

ジョンソン軍曹は、TCCCの実施は、即応性と戦地能力を高め、インド太平洋地域を守り、防衛するために米軍が必要とするツールとスキルを提供するものだと述べている。

「いざという時のために、衛生兵たちに技術を備えておいてもらいたい。世の中で起こっていること全てにおいて、常に準備をしておく必要がある」とジョンソン軍曹は述べた。

